

# AMDA インドネシア・マリノ農場フードプログラム活動報告

(2019年4月～2020年3月)



現地ファシリテーター：イカワティ  
現地スーパーバイザー：ブラエン  
サポートスタッフ：ヌルール・ファジュリ  
主任監督者：アグネス・ランピセラ  
(ハサヌディン大学教授／AMDA インドネシア)

## 2019 年度 活動概要

現在 14 名の農家が従事している AMDA マリノ農場は、開始当初たった 1 名の農家が AMDA の水田で稲作を始めるところからスタートした。現在、農家は主に 11 月から 4 月の雨季に米を栽培している。市場調査や消費者調査をもとにディスカッションを重ねた結果、農家達は 2019 年の 1 月より伝統的な赤米の栽培を始めた。各農家がこれまで販売した米の量は参加した農家のリストとともに以下、図表 1 に示す。

50 キロ以下の量で米の買い取りを希望する農家を除いて、AMDA は基本的に彼らが生産する米の半分を買い取っている。下記の図表にあるように、買い取りを何段階に分けて行っている理由はいくつかある。一つは、米を収穫した直後に、農家達がある程度の現金を確保することが重要であること。もう一つは、その後も継続して、彼らが次の稲作シーズンまで毎月現金収入を得ることが必要だからである。米の栽培に加えて、農家達はこれまで自宅で消費する農作物を各々の畑で作っていたが、有機野菜の栽培を始めた結果、これらもまた彼らの収入源の一つとなっている。

図表 1. 買い取った米の量と生産者のリスト

No	生産者名	米の量 (kg)	米の買い取り段階			
			1	2	3	4
1	PUDDING	100	50	50		
2	BASO	27	27			
3	MAMING	127	50	24	27	26
4	NASANG	57	57			
5	NASIA	208	58	50	100	
6	SANIA	40	40			
7	KADIR	78	47	31		
8	SALLANG	64	50			14
9	HAGE	96				96
10	IMMA	133	50	50	33	
11	THALIB	76	76			
12	AMDA_BR	180	50	27	52	51
13	AMDA	162	57	23	82	
14	MU'MING	50	50			
	合計:	1,398kg	662	255	294	187

AMDA が現地農家から買い取った米は数量にして 1,398 キロ、販売価格は 1 キロあたり 21,000 ルピアであった。これは最終的に 14 名の農家に対し総額で 29,358,000 ルピアを提供したことになる。この買い取りは特に現地農家にとって非常に意義がある。これら有機米と有機野菜から得られる付加的な収入によって、彼らの収入はこれまでの 2 倍に達した。(なお、農家側の普通米の卸価格は 1 キロあたり 5,000 ルピア程度である。) この赤米のポテンシャルは市場的に高く、2019 年度に出荷した分は完売した。このため今後も高い需要が見込まれる。

AMDA のスタッフは、イカとジャマルが現地ファシリテーターを務め、有機農家を後押ししている。水田における稲の計測は現地スタッフ総出で行い、また現地スーパーバイザーのブラエンがミーティングやディスカッション、トレーニングなどの面において現地農家のサポートを行っている。

尚、運営管理を担当するスタッフは農作業管理や記録に当たる一方で、必要に応じて農作業の補助も行っている。

AMDA 農園における農地の耕運に関しては、1月から2月の田植えの時期に、現地農家を定期的に訪れ、連絡をとりながら行っている。また4月から5月にかけては病気や害虫に対する予防策、天然の除虫剤の作り方などについて頻繁に話し合い、この作業を6月の収穫の時期まで行う。実際の収穫やAMDAによる米の買い取り、包装そして販売については下記の図表2を参照のこと。

図表 2 : 2019 年 AMDA マリノ農場における年間活動

	活動内容	2019										2020		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
<b>A</b>	水田 (稲作)													
1	作物の生育測定と生産高の記録													
2	耕運													
3	田植え													
4	肥料散布													
5	除草													
6	天然除虫剤の散布													
7	稲刈り													
8	乾燥													
9	脱穀													
10	包装													
<b>B</b>	畑 (*野菜)													
1	耕運													

2	定植												
3	天然除草剤の散布												
4	収穫												
	*ナス、レタス、人参、赤玉ねぎ、カラシナ												
<b>C</b>	農閑期の活動												
1	籾殻燻炭作り												
2	コンポスト作り												
3	農家からの米の買い取り												
4	顧客向けの米の販売と販促活動												

(月々の活動と活動写真は以下掲載。)

## 2019年4月

### 活動

1. AMDA の水田および他の農家の水田における作物の生育の計測
2. ナスの苗を植える (イカの畑)
3. ペトロオーガニックの準備
4. サニアの水田へのペトロオーガニックの散布
5. 天然除虫剤作りをサポート
6. カラシナ、ナス、レタス、ニンジンを植える
7. 赤玉ねぎの栽培を補助
8. コンポスト作りを補助
9. 籾殻燻炭作りを補助
10. AMDA に買い取ってもらう米の量と価格を農家達と話し合う



写真左：天然除虫剤作り



写真右：天然除虫剤の散布



写真左：天然除虫剤を AMDA の水田に散布



写真右：AMDA の水田における除草作業



写真左：ナス



写真右：粃殻燻炭の散布



写真左：稲の穂の高さを計測



写真右：稲穂の色をチェック



写真左：稲の分けつを数える



写真右：水田の水の温度を測る



写真左：レタス



写真右：コンポスト



写真：赤玉ねぎ



写真：人参

## 2019年5月

### 活動

1. AMDA の水田および他の農家の水田における作物の育成の測定
2. 天然除虫剤作り
3. レタスと赤玉ねぎを植える
4. コンポスト作り
5. 水田および畑における害虫や作物の病気について農家達と相談
6. 水田における除草作業



写真左：害虫

写真右：レタスの収穫



写真：赤玉ねぎの栽培に向けた耕運



写真左：害虫により及んだ被害

写真右：天然除虫剤作り



写真：稲が豊かに実り育つ様子



写真左：コンポスト作り

写真右：牛から採取した液状の肥料



写真左：赤玉ねぎ

写真右：ナスの苗

2019年6月

活動

1. 作物の測定およびサンプリング
2. 収穫
3. 米の脱穀と買い取りに関して農家と相談



写真：作物測定のためのサンプリング



写真：収穫時



写真左：除虫剤作り

写真右：AMDAの水田で収穫された米

## 2019年7月

### 活動

1. 作物生産高の測定とサンプリング
2. 米の収穫と乾燥
3. ラベルの印刷と包装に向けた準備
4. カラシナの苗を定植



写真：収穫した米をサンプリングし、試験的に加工して生産高の見積もりを出している様子

## 2019年8月

### 活動

1. 作物生産高の測定とサンプリング、乾燥したもののサンプリング、重量の計測
2. 米の包装
3. 包装ならびに顧客に関する情報について農家と相談
4. レタスの苗の準備



写真：試験的な米の脱穀、米の乾燥、重量の計測



写真：米をきれいにして包装

## 2019年9月

### 活動

1. 有機の畑でレタスを収穫
2. 米の脱穀と注文書に関して農家と相談



写真：レタスの栽培と収穫

## 2019年10月および11月

### 活動

1. 米の包装
2. 農家から米の買い取り
3. 顧客への米の販売と配送



写真：米の脱穀



写真左：有機栽培された赤米

写真右：配達される米

## 2019年12月

### 活動

1. 米の乾燥
2. 脱穀
3. 包装とラベル貼り
4. 農家からの米の買い取り



写真：米の乾燥



写真：米を包装する機械と包装後の赤米

2019年1月

活動

1. 耕運
2. 田植え





写真左：耕運と田植え

写真右：籾殻燻炭の散布



## 2019年2月

### 活動

1. 耕運
2. 全員で協力して田植え作業



2019年3月

活動

1. 作物の生育の測定
2. 水田の水の温度をモニタリング



写真：各農家が水田で稲の高さを測っている様子



写真左：水田における水の温度のチェック

写真右：稲の色をチェック



【文責】 アグネス・ランピセラ（ハサヌディン大学教授／AMDA インドネシア）